

「おへそから膿が出ます！」

尿膜管膿瘍とは？

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

今日は、おへその病気のお話です。突然、おへそから、膿が出ます！こんな症状で受診される患者さんがいらつしやいます。

おへそはもとも生まれる前、自分のお母様とへその緒でつながっています。おへそから胎児の膀胱までつながっており、いろいろなやりとりをしています。生まれた後、へその緒を切断すると、その管は消退していきませんが、そこで残る遺残組織が尿膜管と呼ばれます。尿膜管にできる病気のひとつが、おへそから膿が出る尿膜管膿瘍です。

これは、おへその下にある尿膜管洞という空間に菌がたまり炎症を起こしたものです。自覚症状として、おへそが赤くなる、膿が出る、嫌なにおいがあるなどの症状があります。おへそから膿が出る病気には、他に臍炎というものもあります。これはおへそのくぼみだけに炎症を起こしたものです。おへその奥に細菌がたまることで炎症を起こします。

おへそから膿が出る、尿膜管膿瘍や臍炎の診断、治療はどうするのでしょうか？

まず超音波検査を行い、へそ周囲の

炎症部位の確認や膿瘍（膿のたまり）形成の有無などを画像で確認します。尿膜管膿瘍は悪化すると、腹膜炎を併発することもあり、必要に応じてCT検査などを行う場合もあります。その他、尿検査や膿の細菌培養検査、採血検査などが行われる場合があります。

治療は、尿膜管膿瘍も臍炎も基本的には、抗菌薬の投与となります。膿瘍の改善がない場合は、膿瘍部位を切開してドレナージ（排膿）を行う場合があります。炎症を繰り返す場合には、手術療法が行われることもあります。

尿膜管の病気で注意が必要なのは、尿膜管がんです。これは、おへそ側ではなく膀胱側にできることが多いんです。慢性炎症を起こすことでがんが発生するリスクがありますが、尿膜管膿瘍との関連は詳しく分かっていません。血尿や、膀胱部に違和感がある場合などには注意が必要です。

そもそもこの病気、何科にかければいいのでしょうか？泌尿器科、皮膚科、内科、外科など病院によって診療科が変わることがあります。なかなか専門的に診断できる病院は少ないかもしれ



Profile

佐々木クリニック泌尿器科芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師
1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がん研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US前立腺融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。その他の専門分野として尿膜管疾患で多くの治療経験を有する。尿膜管の腹腔鏡手術では新しい術式を考案し、2018年学会賞を受賞した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。メンズヘルス医学会テストステロン治療認定医として男性更年期外来も行っている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように